

9 「孤立ゼロプロジェクト」など

-
- (1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況
 - (2) 地域包括支援センター、及び業務内容の認知
 - (3) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向
 - (4) 「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況
 - (5) 「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況
 - (6) 仕事と仕事以外の生活の調和
 - (7) 「成年後見制度」「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況
-

9 「孤立ゼロプロジェクト」など

（1）「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

問33 あなたは、足立区の「孤立ゼロプロジェクト（※）」という取り組みを知っていますか
（○は1つだけ）。

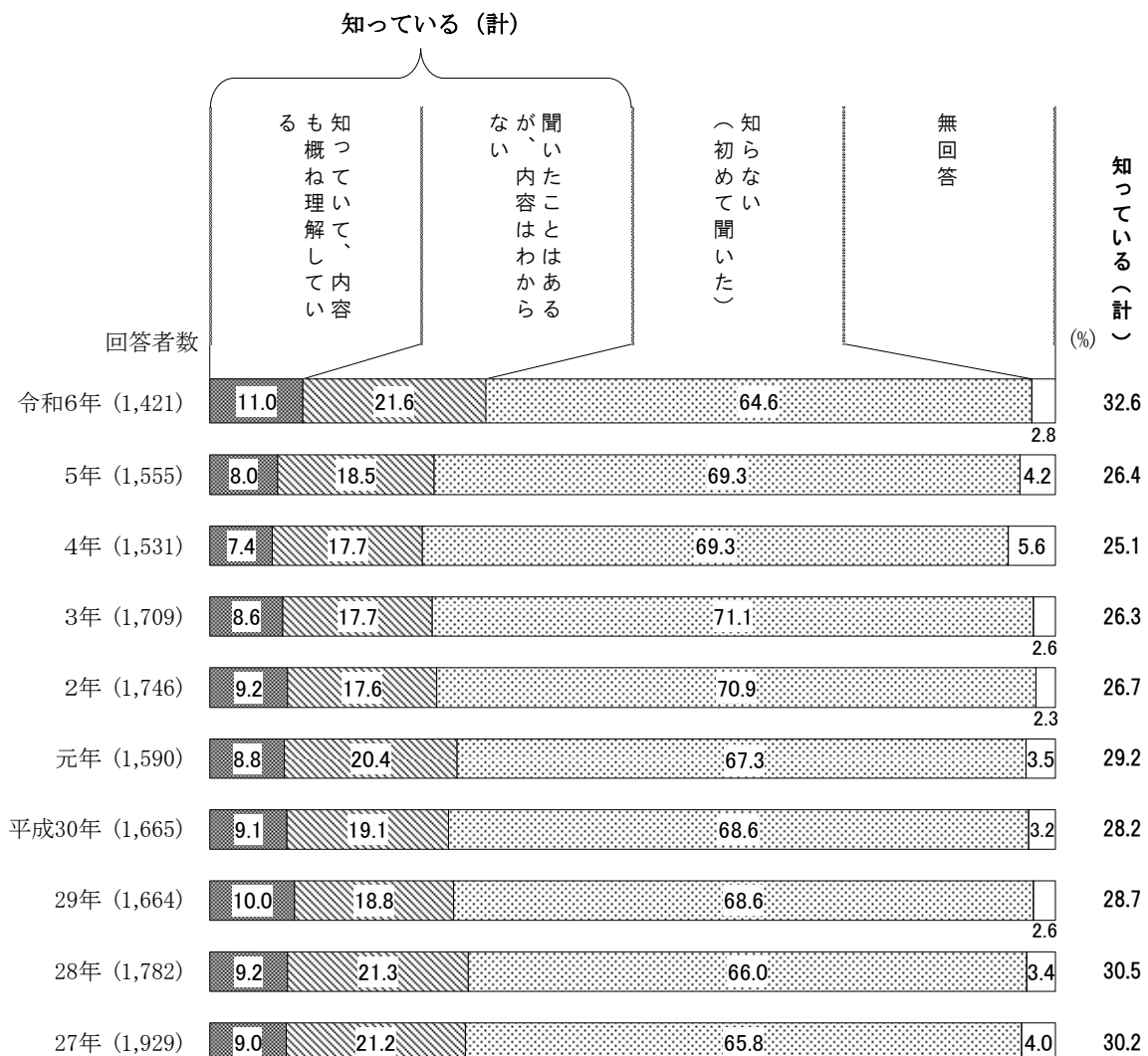
※「孤立ゼロプロジェクト」とは、地域における見守り活動を支援するとともに、日常的な寄り添い支援活動を通じて、支援を必要とする方を早期に発見し、必要なサービスにつなぎ、地域活動などへの社会参加を促す一連の活動をいいます。

■【知っている】は3割台半ば近くで、「知らない（初めて聞いた）」が6割台半ば

ア 単純集計・経年比較／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

- （ア）「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況は、「知っていて、内容もおおむね理解している」が11.0%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」の21.6%を合わせた【知っている】は32.6%となっている。
- （イ）「孤立ゼロプロジェクト」を「知らない（初めて聞いた）」は64.6%を占めている。
- （ウ）前回調査との比較では、【知っている】は6.2ポイント増加し、平成28年度調査（30.5%）以来8年ぶりに3割台となった。

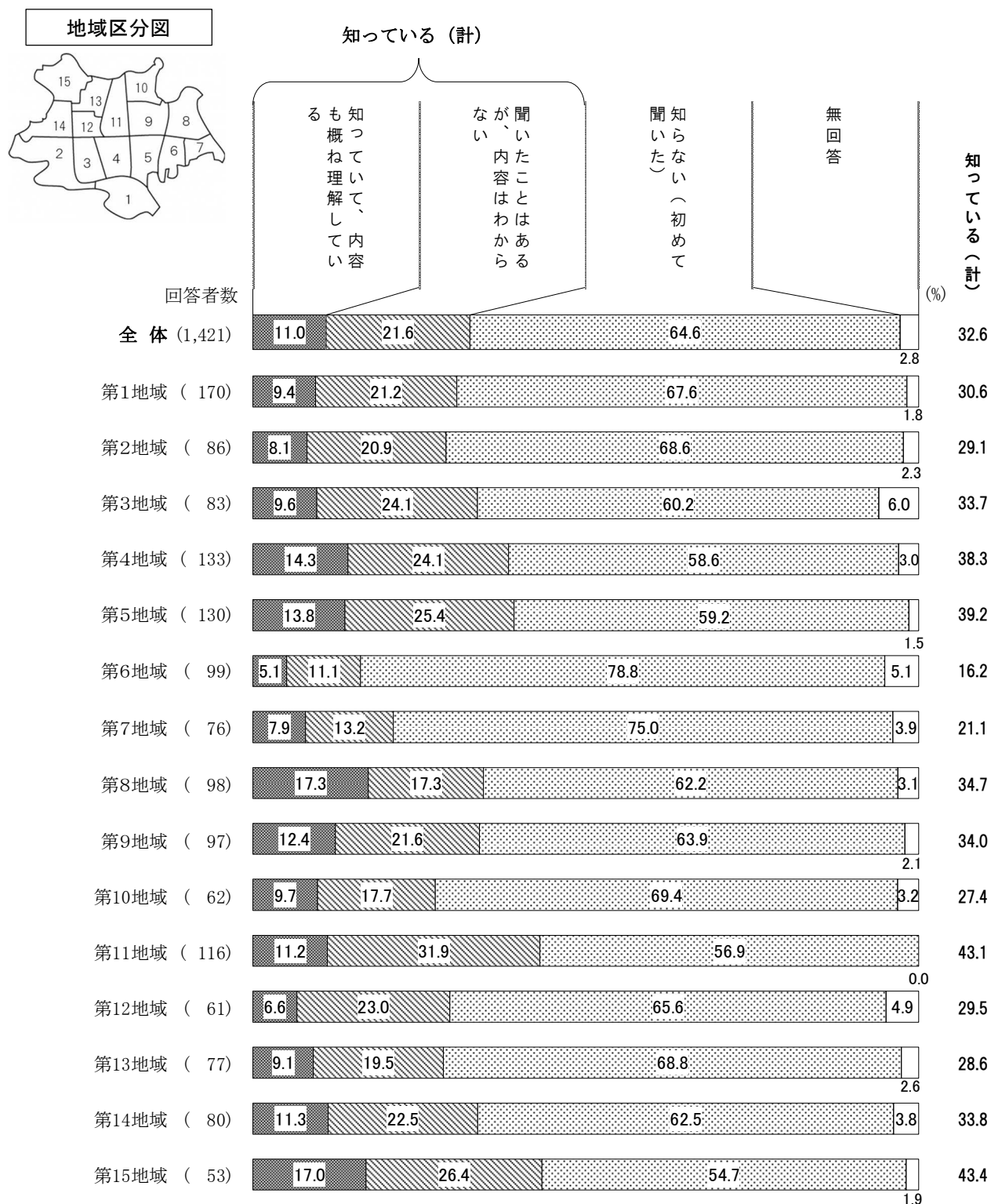
図9-1-1 経年比較／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



イ クロス集計・地域別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

地域別でみると、【知っている】は第15地域が43.4％で最も高く、次いで第11地域（43.1％）が4割台で続いている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は第6地域が78.8％で最も高く、次いで第7地域（75.0％）が7割台と高くなっている。

図9－1－2 地域別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

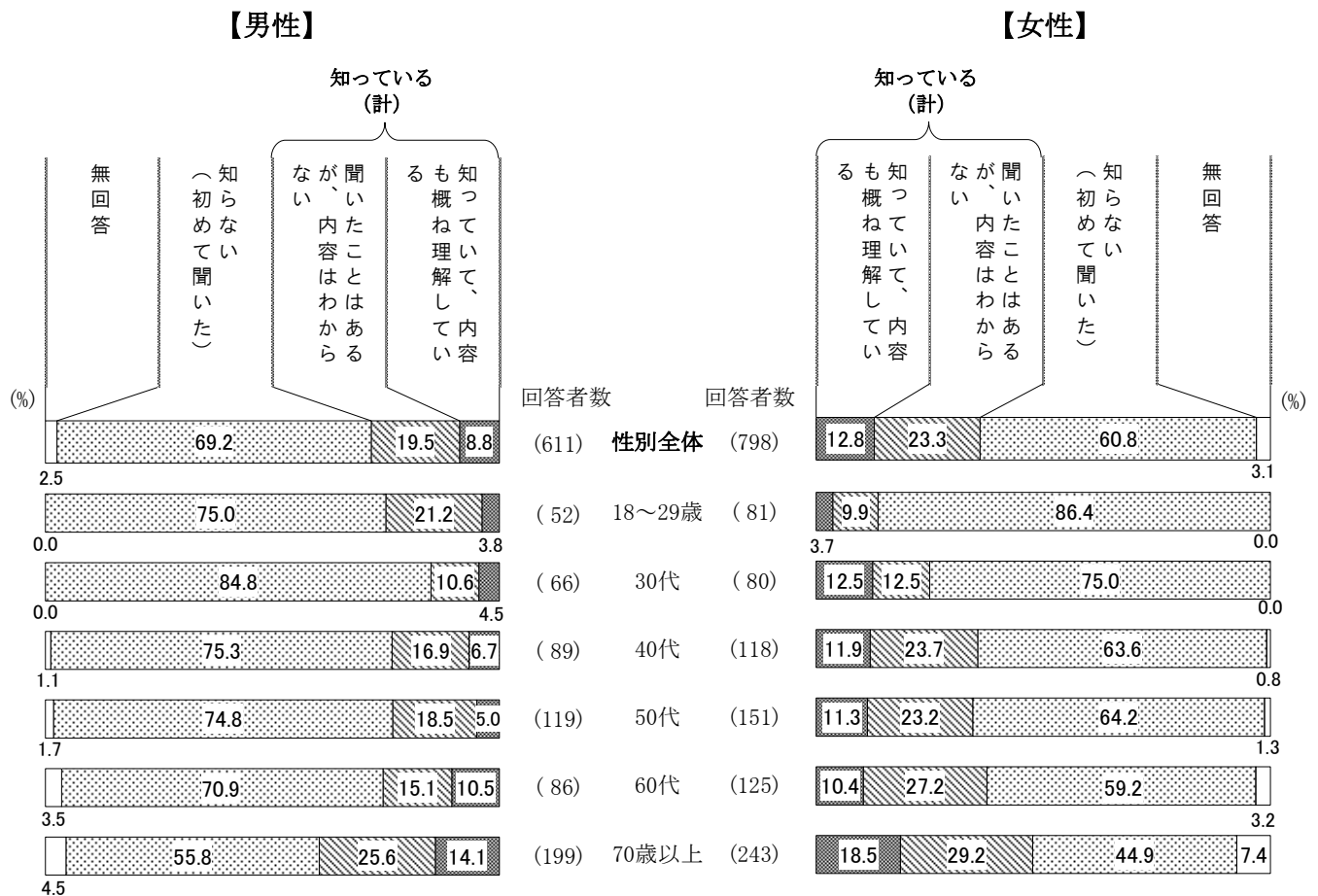


ウ クロス集計・性別、性・年代別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

（ア）性別でみると、【知っている】は女性（36.1%）の方が男性（28.3%）より7.8ポイント高くなっている。

（イ）性・年代別でみると、【知っている】は女性の70歳以上が47.7%と最も高く、次いで、男性の70歳以上（39.7%）が続いている。逆に、女性の18～29歳（13.6%）と男性の30代（15.2%）で1割台と特に低くなっている。

図9-1-3 性別、性・年代別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



（2）地域包括支援センター、及び業務内容の認知

問34 現在、区内には、高齢者の介護や生活上の相談等を受ける地域包括支援センターがあります。あなたは、地域包括支援センター（ホウカツ）の業務内容を知っていますか（〇はあてはまるものすべて）。

- 【業務内容を知っている】が5割、「地域包括支援センター（ホウカツ）を知らない」が3割
- 知っている業務内容は、「高齢者の健康や介護の相談」、「介護保険サービスの相談」、「高齢者宅への訪問調査」の順

ア 単純集計／地域包括支援センター、及び業務内容の認知

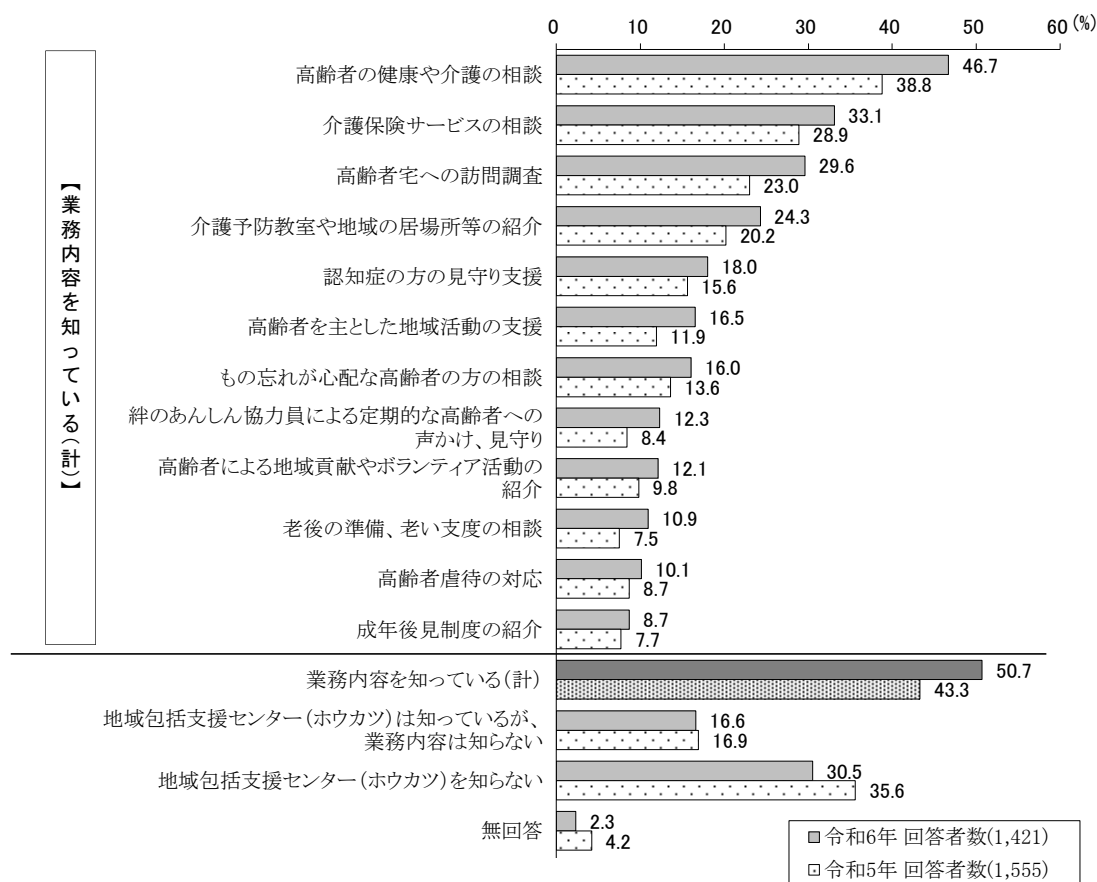
（ア）地域包括支援センターの認知については、【業務内容を知っている】が50.7%で、「地域包括支援センターは知っているが、業務内容は知らない」が16.6%、「地域包括支援センターを知らない」が30.5%となっている

（イ）知っている業務内容の上位は以下のとおりとなっている。

- ①「高齢者の健康や介護の相談」（46.7%）
- ②「介護保険サービスの相談」（33.1%）
- ③「高齢者宅への訪問調査」（29.6%）

（ウ）前回調査と比較してみると、【業務内容を知っている】が7.4ポイント増加している。また、すべての業務内容でも割合が増加しており、特に「高齢者の健康や介護の相談」で7.9ポイント、「高齢者宅への訪問調査」で6.6ポイント大幅に増加している。

図9-2-1 前回調査比較／地域包括支援センター、及び業務内容の認知

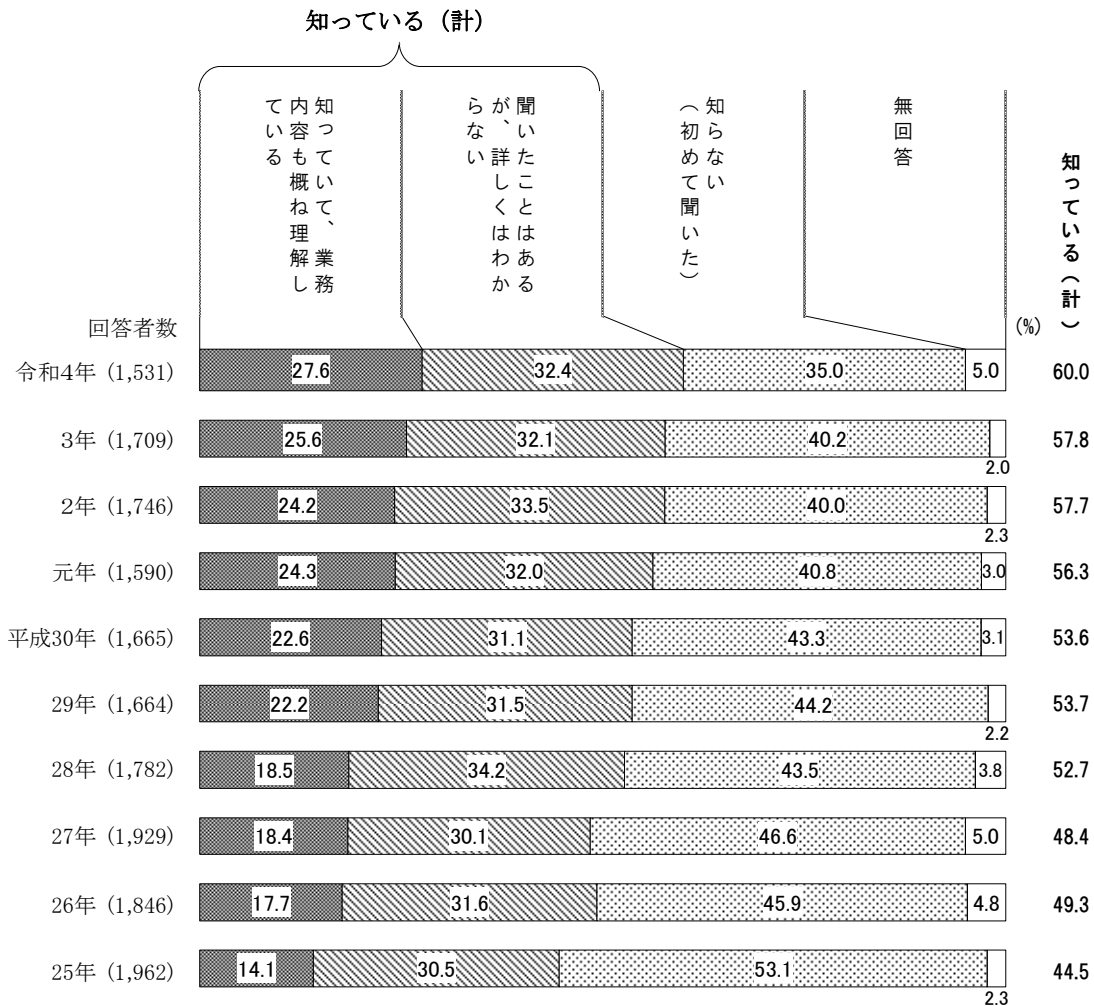


※《業務内容を知っている（計）》＝100%－「地域包括支援センター（ホウカツ）は知っているが、業務内容は知らない」－「地域包括支援センター（ホウカツ）を知らない」－「無回答」

参考／地域包括支援センターの認知

問 あなたは、「地域包括支援センター（※）」を知っていますか（○は1つだけ）。

※「地域包括支援センター」は、足立区から委託を受けた公的な「高齢者の総合相談窓口」です。高齢者やご家族の方の健康や介護に関する様々なご相談に応じています。



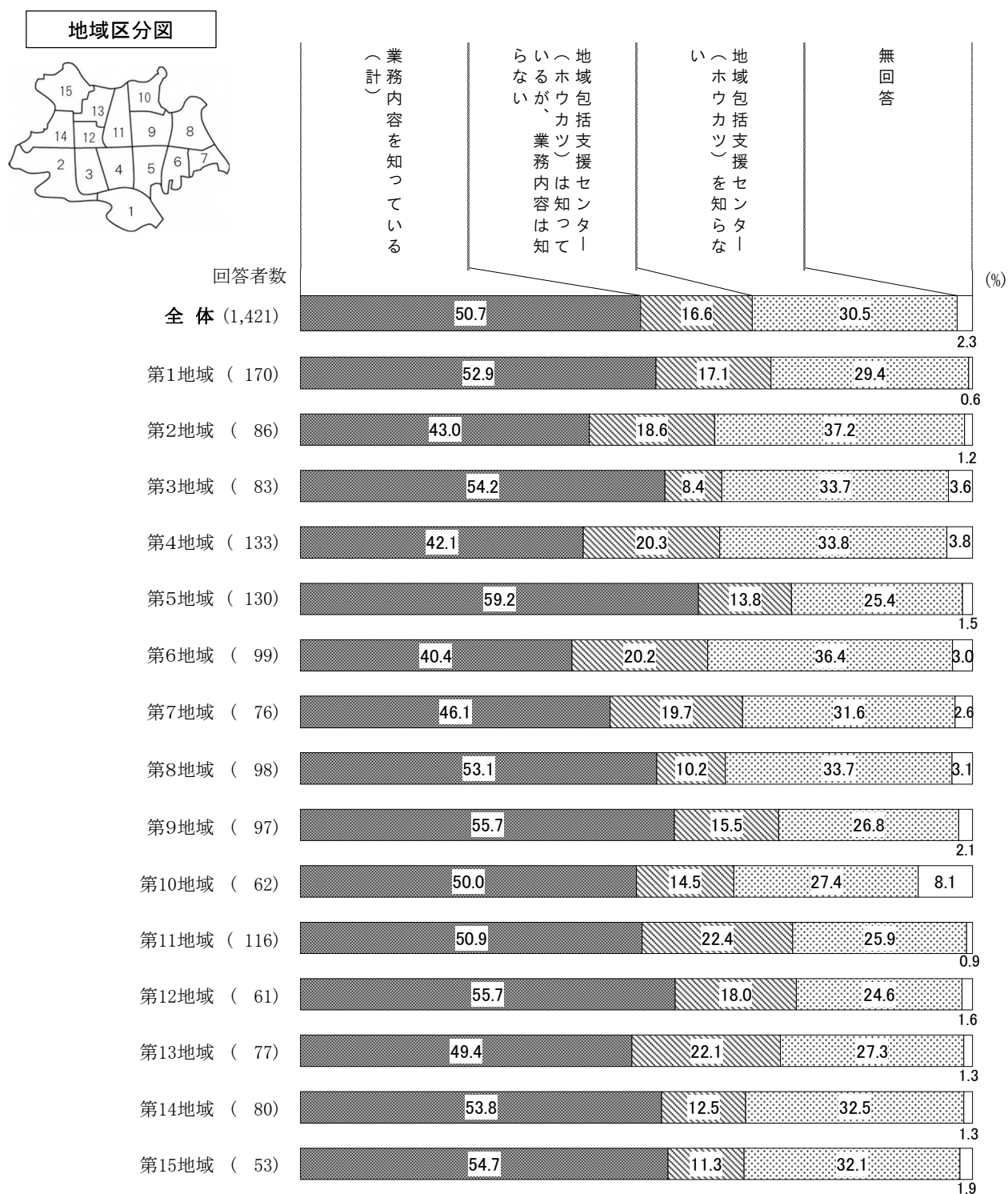
※ 令和4年度までは「地域包括支援センター」の認知のみを聴いていたが、令和5年度調査からは認知に併せて、業務内容を選択肢で提示して聴いたことから、認知状況に影響を与えたと考えられるため、単純に比較できない。

イ クロス集計・地域別／地域包括支援センター、及び業務内容の認知

（ア）地域別に認知状況をみると、《業務内容を知っている》は第5地域が59.2%で最も高く、次いで、第9地域と第12地域（各55.7%）などとなっている。

（イ）「地域包括支援センター（ホウカツ）を知らない」は第2地域が37.2%で最も高く、次いで、第6地域（36.4%）、第4地域（33.8%）などとなっている。

図9-2-2 地域別／地域包括支援センター、及び業務内容の認知

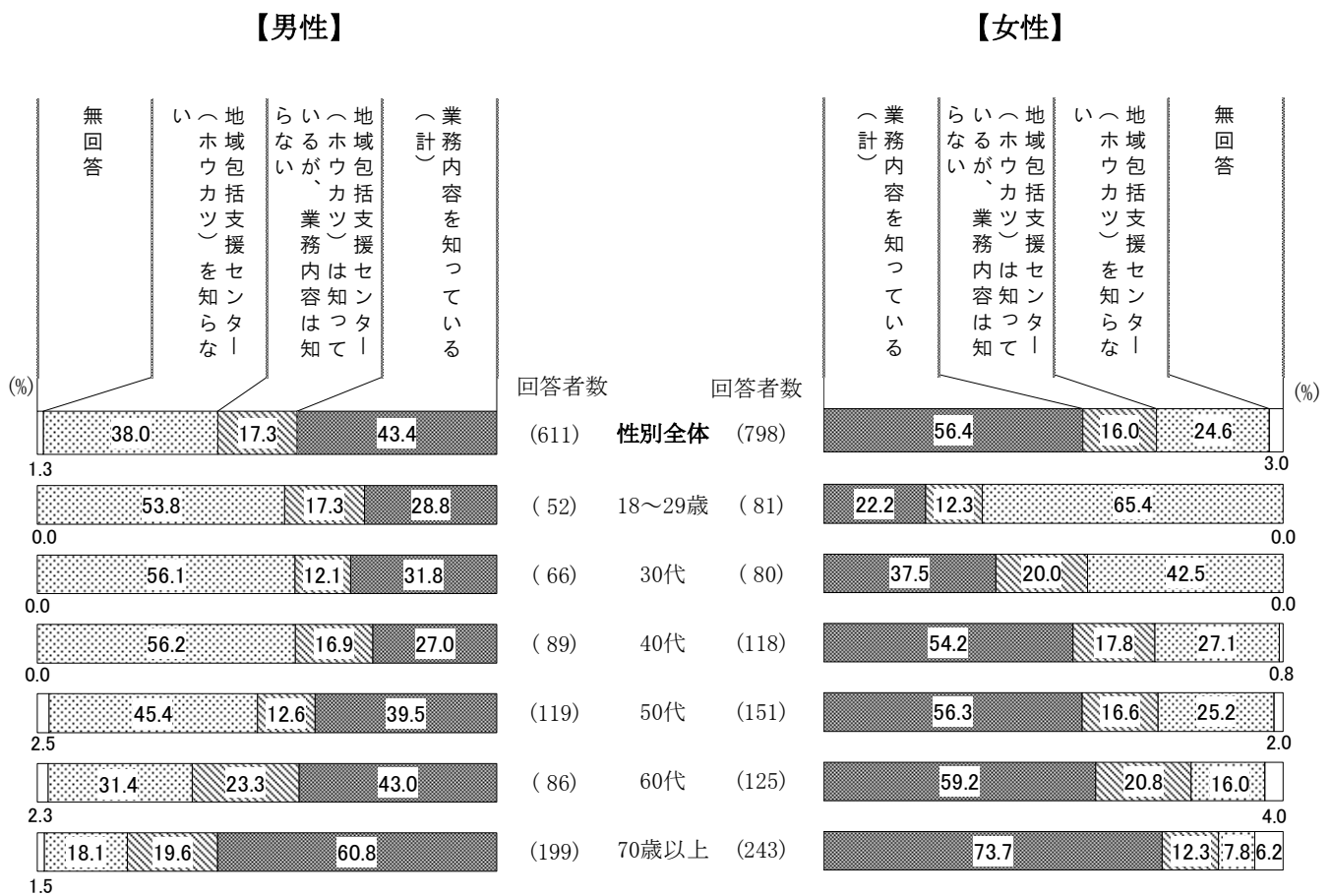


ウ クロス集計・性別、性・年代別／地域包括支援センター、及び業務内容の認知

（ア）性別にみると、《業務内容を知っている》は、女性（56.4%）の方が男性（43.4%）より13.0ポイント高くなっている。

（イ）性・年代別にみると、《業務内容を知っている》は、女性の70歳以上で73.7%と最も高く、次いで、男性の70歳以上（60.8%）、女性の60代（59.2%）などとなっている。一方、「地域包括支援センター（ホウカツ）を知らない」は女性の18～29歳で65.4%と最も高く、次いで、男性の40代以下の年齢層で5割台となっている。

図9-2-3 性別、性・年代別／地域包括支援センター、及び業務内容の認知



（3）高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

問35 あなたは、高齢者の孤立防止や見守り活動に協力してみたいですか（○は1つだけ）。

■【協力したい】は2割台半ばに増加、【協力できない】は4割超

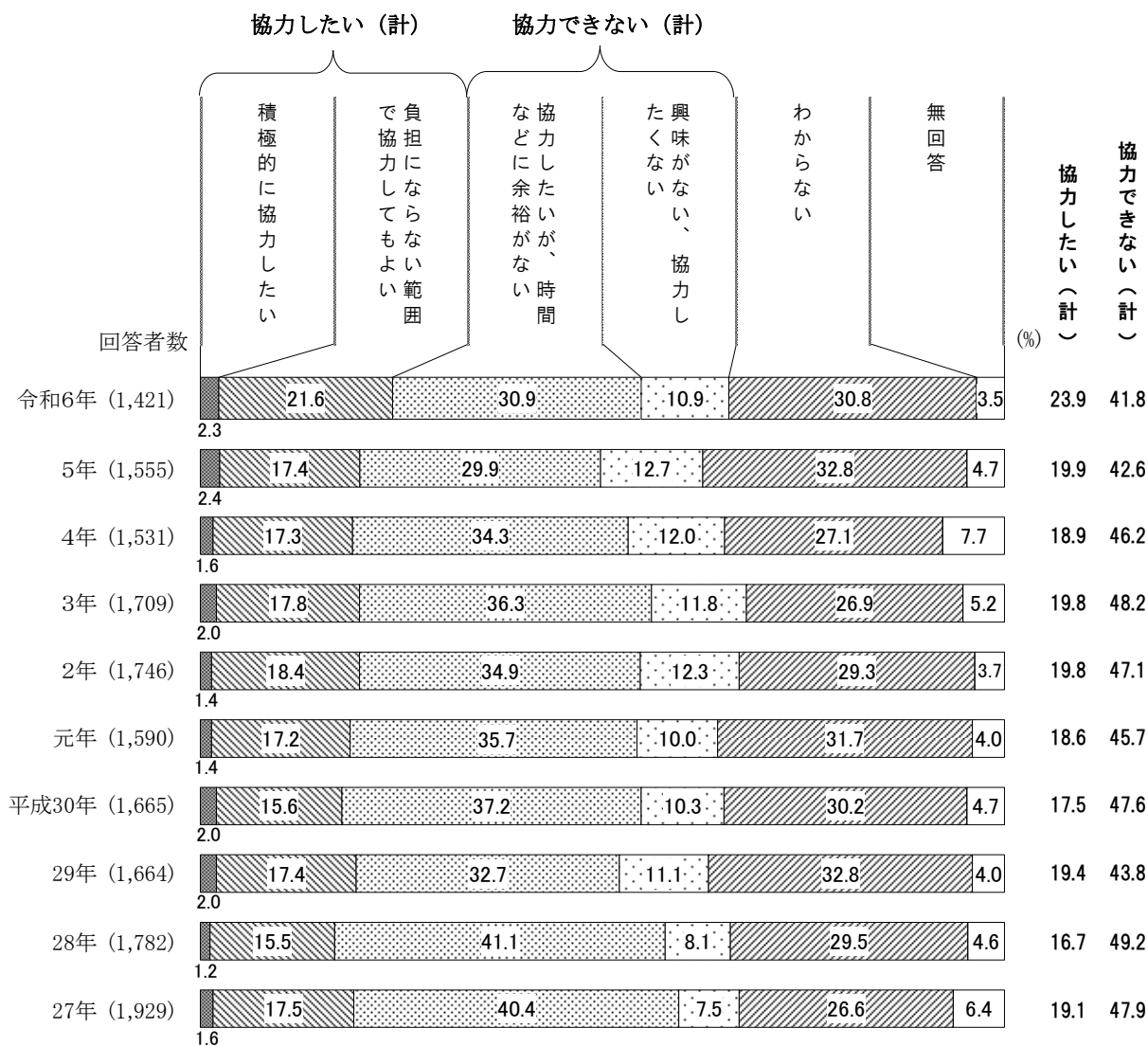
ア 単純集計・経年比較／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

（ア）高齢者の孤立防止や見守り活動に「積極的に協力したい」は2.3%で、これに「負担にならない範囲で協力してもよい」（21.6%）を合わせた【協力したい】は23.9%となっている。

（イ）活動に「協力したいが、時間などに余裕がない」は30.9%で最も高く、これに「興味がない、協力したくない」（10.9%）を合わせた【協力できない】は41.8%となっている。

（ウ）前回調査との比較では、【協力したい】が4.0ポイントの増加となっている。

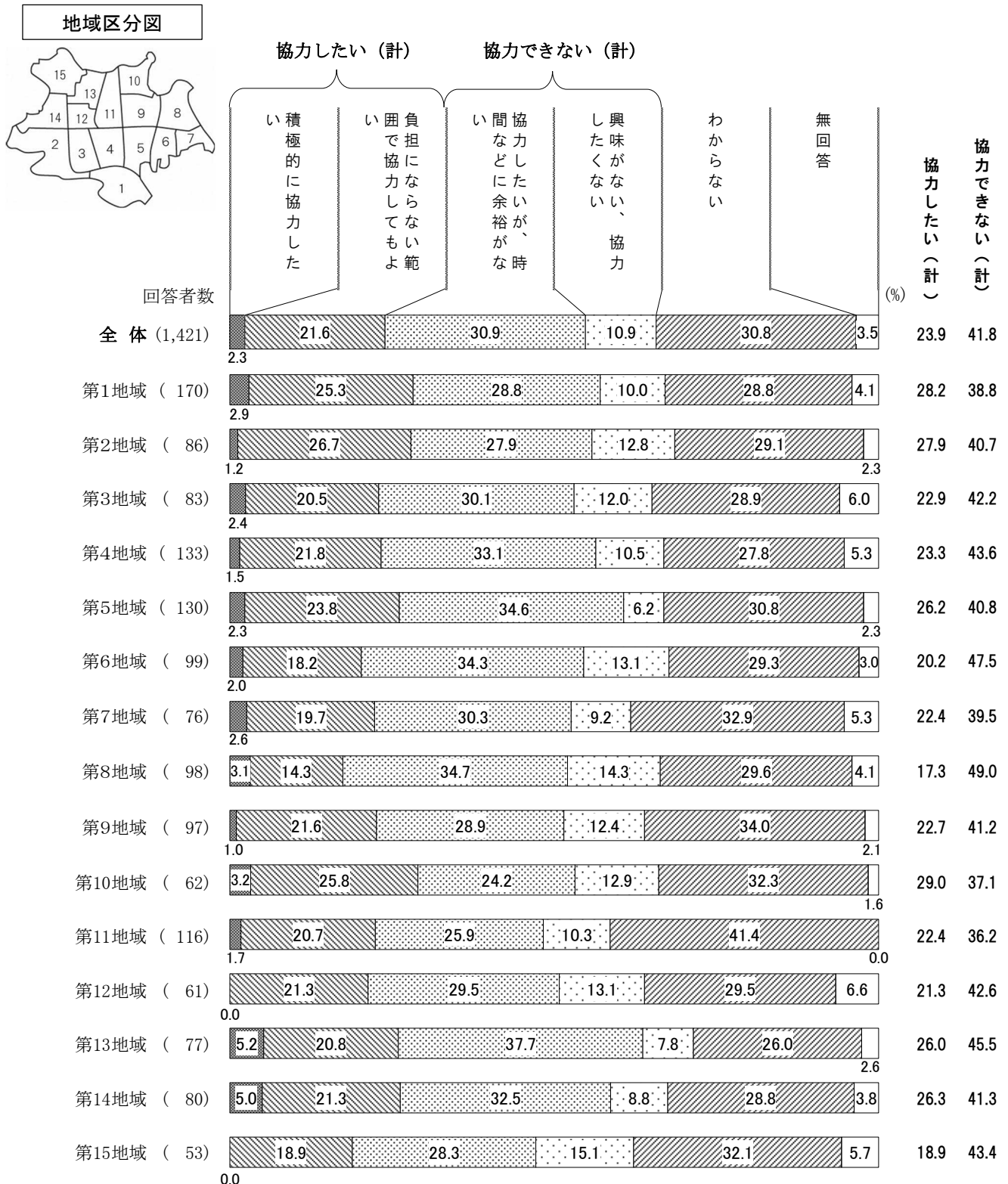
図9-3-1 経年比較／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向



イ クロス集計・地域別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

地域別でみると、【協力したい】は第10地域が29.0%で最も高く、次いで、第1地域（28.2%）、第2地域（27.9%）となっている。一方、【協力できない】は第8地域が49.0%と最も高く、次いで、第6地域（47.5%）となっている。

図9-3-2 地域別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

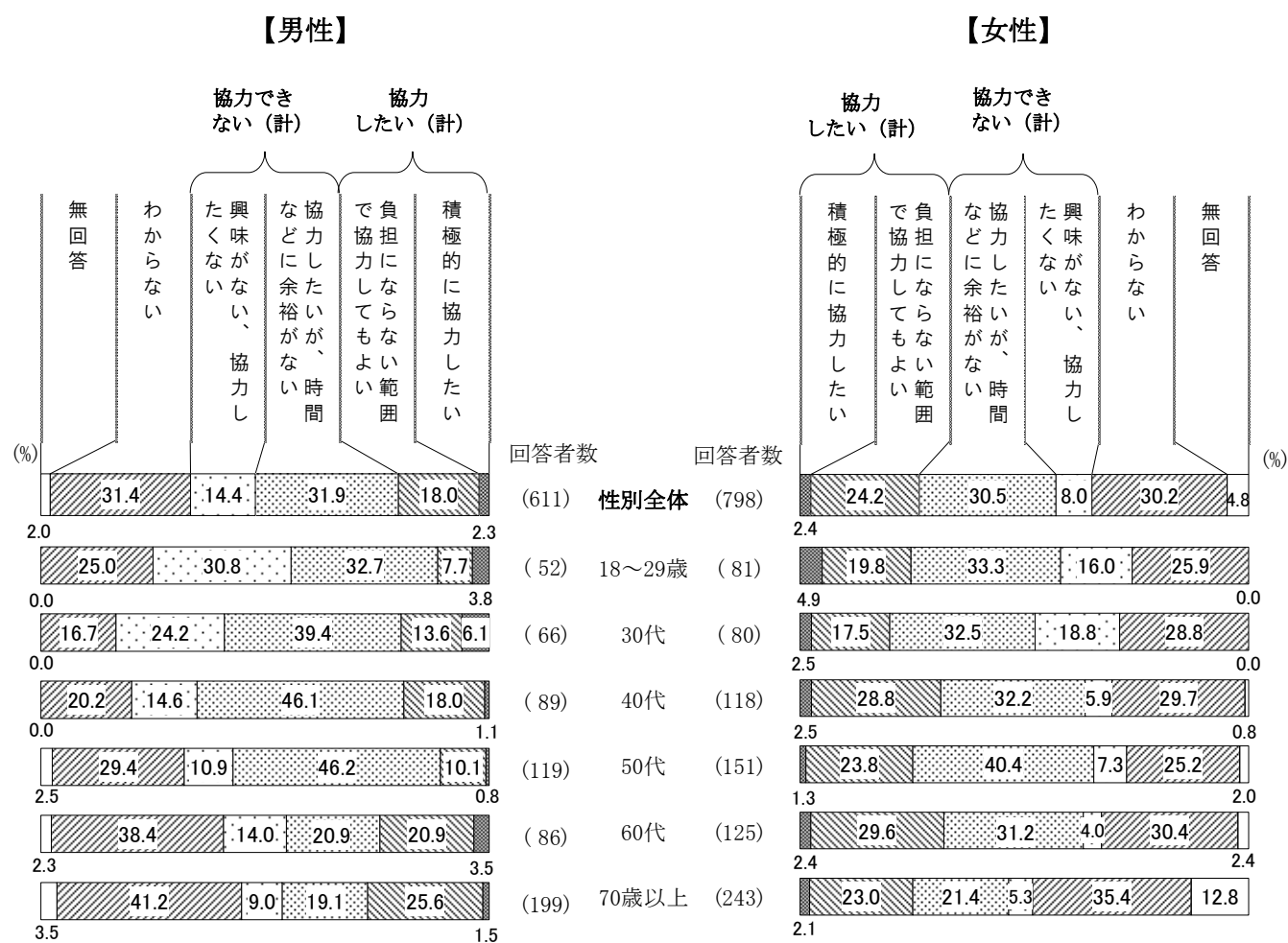


ウ クロス集計・性別、性・年代別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

（ア）性別でみると、【協力したい】は女性（26.6%）の方が男性（20.3%）より6.3ポイント高くなっている。

（イ）性・年代別でみると、【協力したい】は女性の60代（32.0%）と40代（31.4%）で3割台と高く、次いで、男性の70歳以上（27.1%）となっている。一方、【協力できない】は、男性の50代以下の年齢層で6割前後、女性の30代以下の年齢層で5割前後と高くなっている。

図9-3-3 性別、性・年代別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向



（4）「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

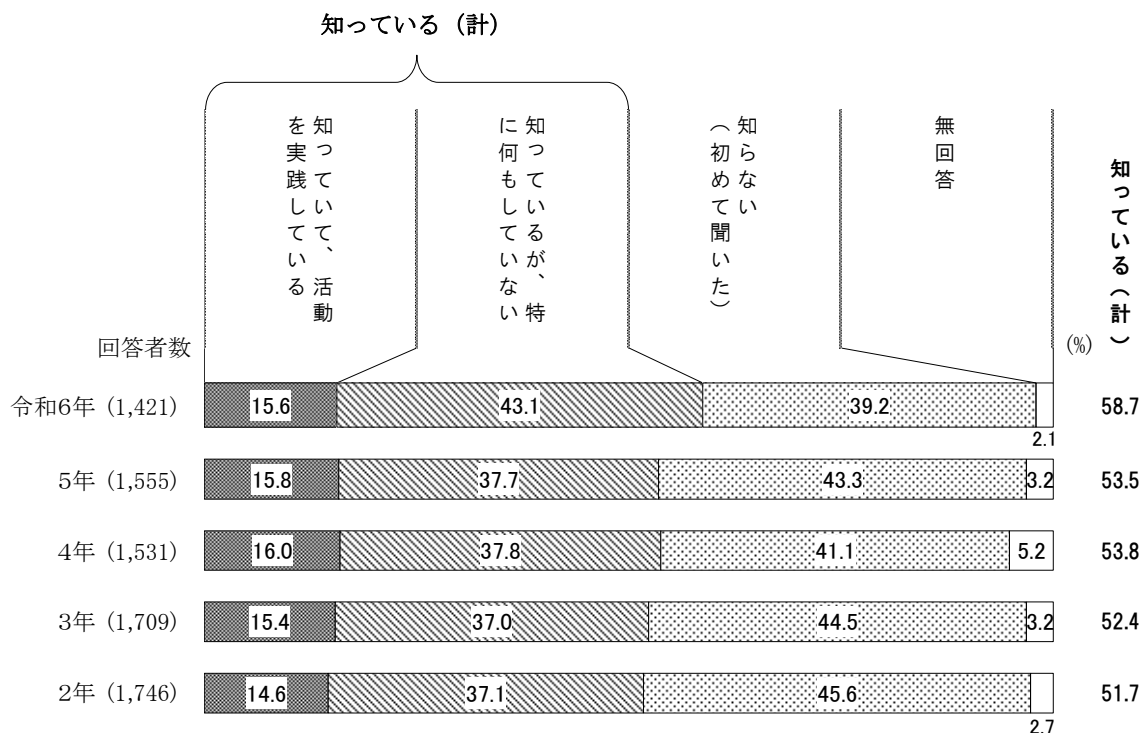
問36 あなたは、高齢期におこりやすい、筋力や心身の機能などが低下し、衰弱した状態「フレイル」にならないためには、「運動」「口の健康・栄養」「社会参加」が大切なことを知っていますか（○は1つだけ）。

■【知っている】は6割近く、「知らない（初めて聞いた）」は約4割

ア 単純集計・経年比較／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

- （ア）「フレイル」にならないために「運動」「口の健康・栄養」「社会参加」が大切なことの認知とその実践状況は、「知っていて、活動を実践している」は15.6%となっており、これに「知っているが、特に何もしていない」（43.1%）を合わせた【知っている】は58.7%となっている。
- （イ）「フレイル」にならないための活動について「知らない（初めて聞いた）」は39.2%となっている。
- （ウ）前回調査との比較では、【知っている】が5.2ポイント増加している。

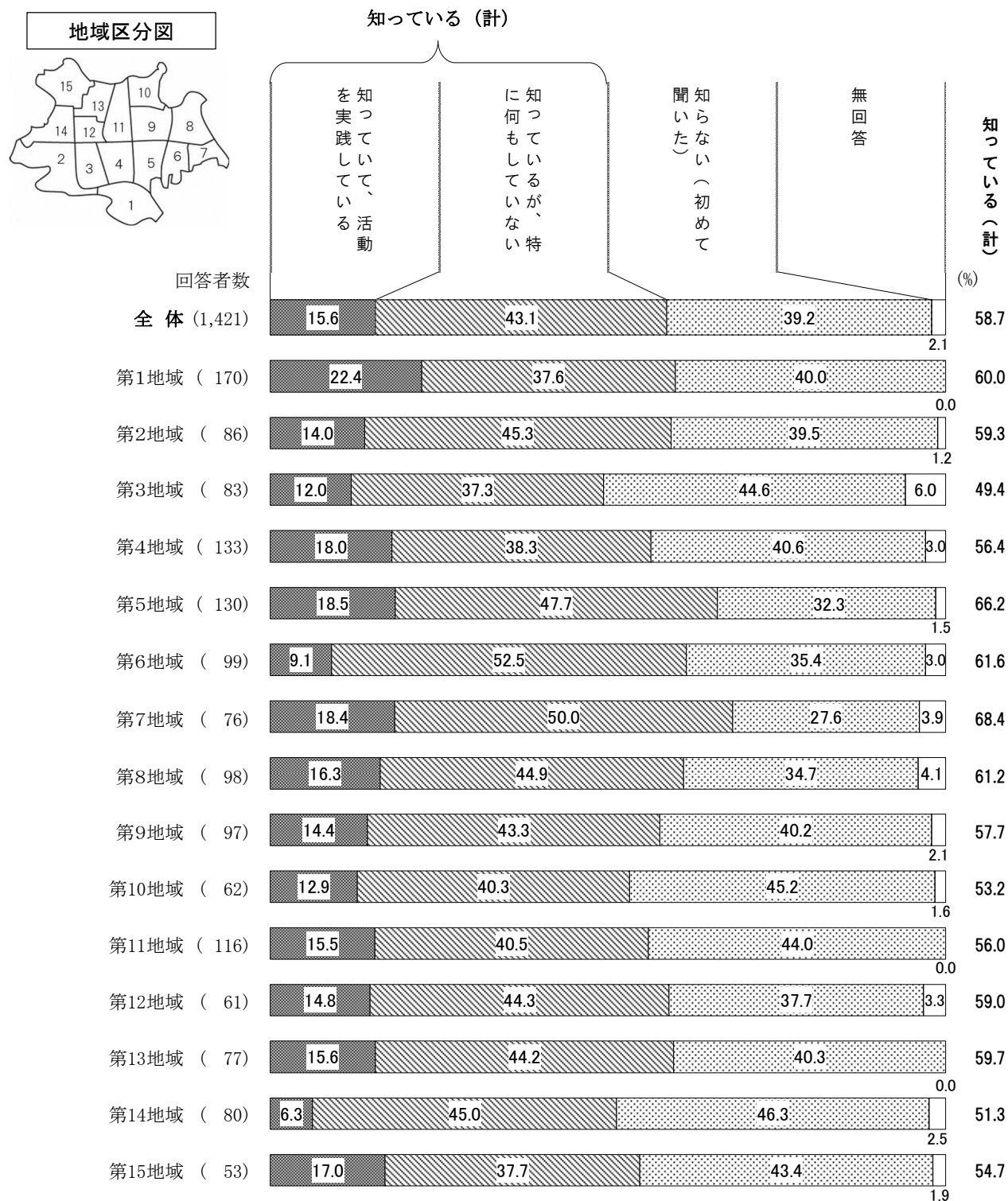
図9-4-1 経年比較／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況



イ クロス集計・地域別／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

地域別でみると、「知っていて、活動を実践している」は第1地域が22.4%で唯一2割台となっている。【知っている】でみると、第7地域が68.4%で最も高く、次いで第5地域（66.2%）となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は第14地域が46.3%で最も高く、次いで第10地域（45.2%）となっている。

図9-4-2 地域別／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

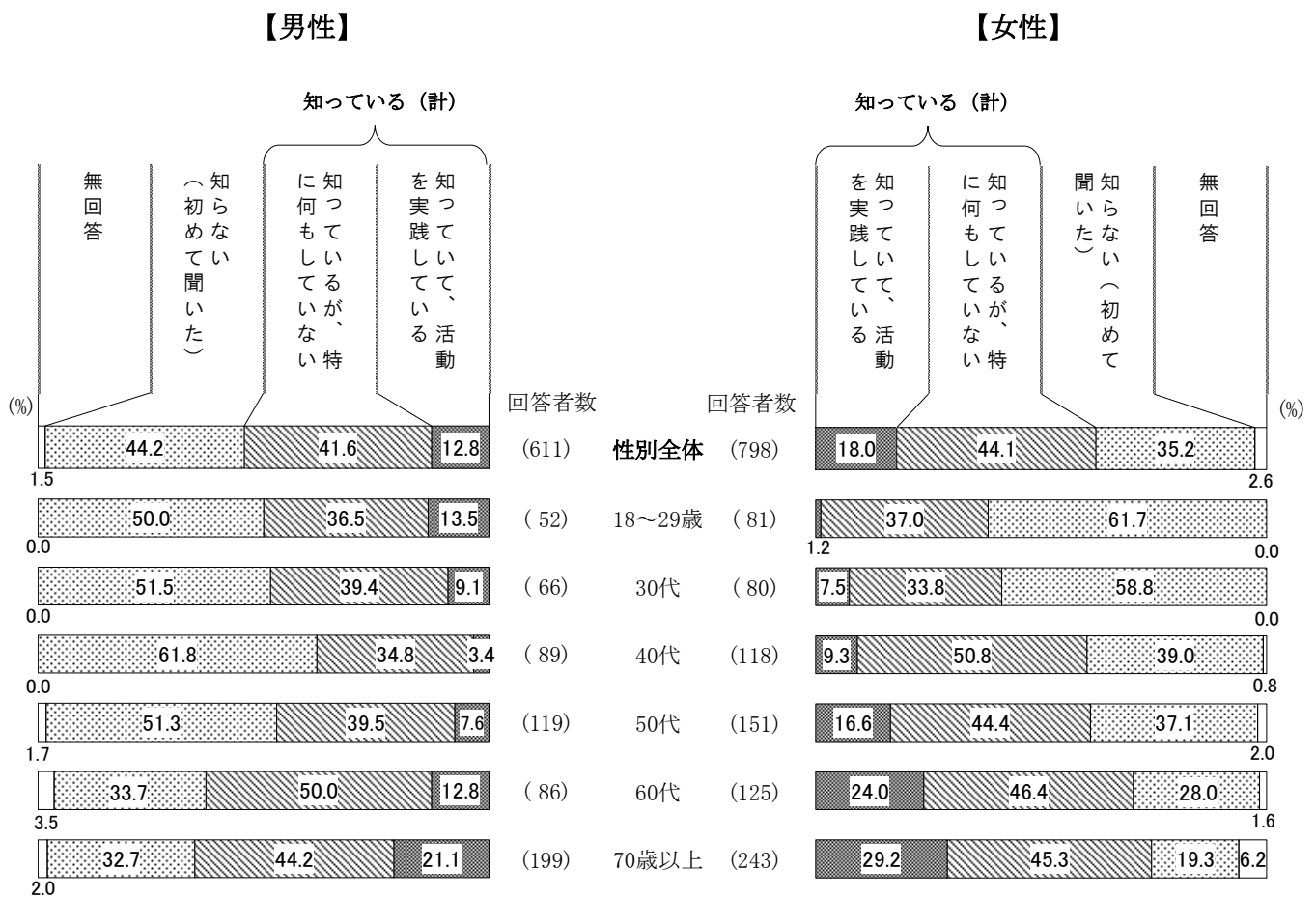


ウ クロス集計・性別、性・年代別／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

(ア) 性別でみると、【知っている】は女性（62.2%）の方が男性（54.3%）より7.9ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【知っている】は、女性の60代、70歳以上で7割台と高く、男性の70歳以上でも6割台半ばと高くなっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は男性の40代と女性の18～29歳で6割超と高くなっている。

図9-4-3 性別、性・年代別／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況



（5）「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況

問37 あなたは、たんぱく質を多く含む食品（肉・魚・卵・大豆製品の1種類以上）をどれくらいの頻度で食べていますか（○は1つだけ）。
 ※「フレイル」になる要因の一つとして、たんぱく質の不足があげられます。

■「毎食（1日3回）食べている」が約2割、「1日2回位食べている」が3割台半ば

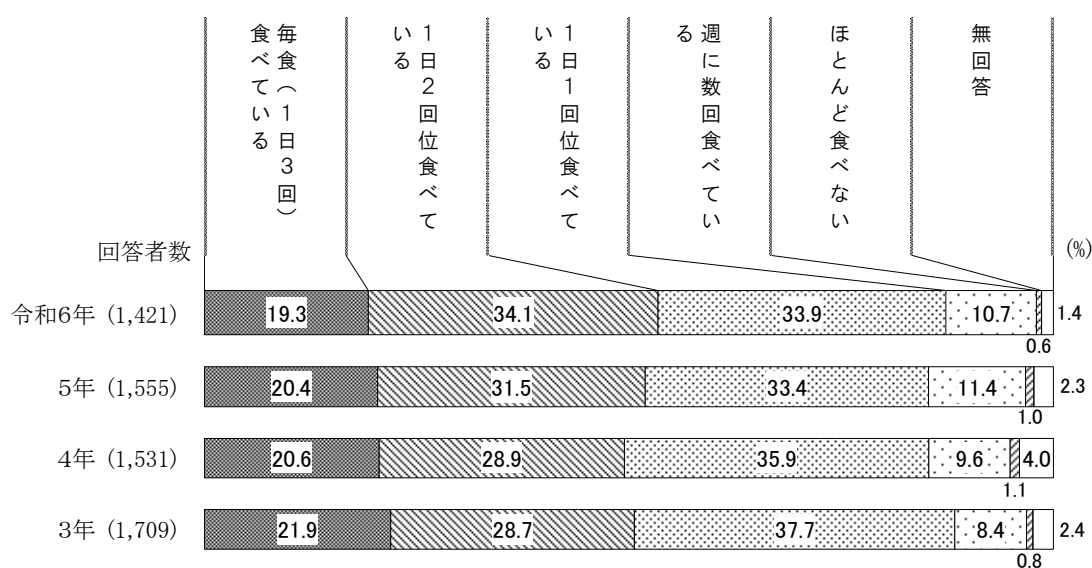
ア 単純集計・経年比較／「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況

（ア）「たんぱく質を多く含む食品」の摂取頻度は、高い順にみると以下のとおりとなっている。

- ①「1日2回位食べている」（34.1%）
- ②「1日1回位食べている」（33.9%）
- ③「毎食（1日3回）食べている」（19.3%）
- ④「週に数回食べている」（10.7%）
- ⑤「ほとんど食べない」（0.6%）

（イ）前回調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

図9-5-1 経年比較／「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況

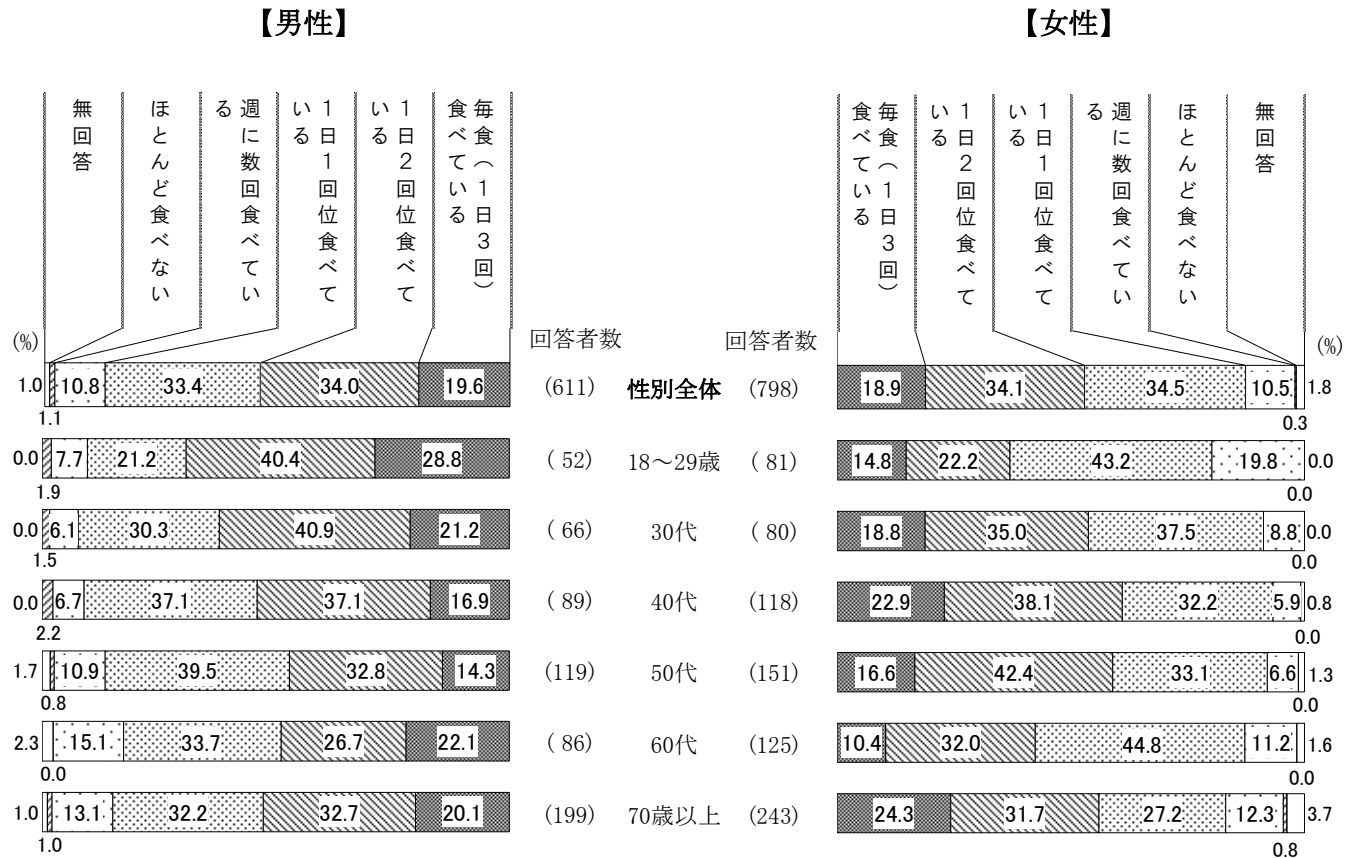


イ クロス集計・性別、性・年代別／「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況

（ア）性別でみると、特に大きな違いはみられない。

（イ）性・年代別でみると、「毎食（1日3回）食べている」は男性では18～29歳（28.8%）が最も高く、50代（14.3%）が最も低くなっているが、女性では70歳以上（24.3%）が最も高く、60代（10.4%）が最も低くなっており、男女で年代別の割合に大きな違いが見られる。

図9-5-2 性別、性・年代別／「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況



（6）仕事と仕事以外の生活の調和

問38 あなたは、仕事と仕事以外の生活の調和が取れていると思いますか（○は1つだけ）。

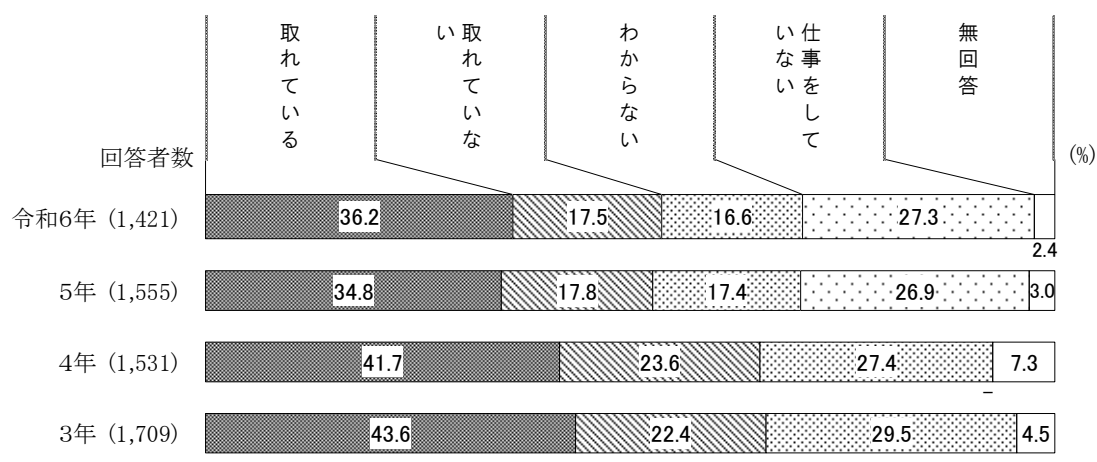
■「取れている」が3割台半ば、「取れていない」と「わからない」が1割台半ば

ア 単純集計・経年比較／就業者における仕事と仕事以外の生活の調和

（ア）仕事と仕事以外の生活の調和について、「取れている」が36.2%で、「取れていない」（17.5%）と「わからない」（16.6%）がほぼ同じ割合となっている。

（イ）前回調査との比較では、特に大きな違いは見られない。

図9－6－1 経年比較／仕事と仕事以外の生活の調和

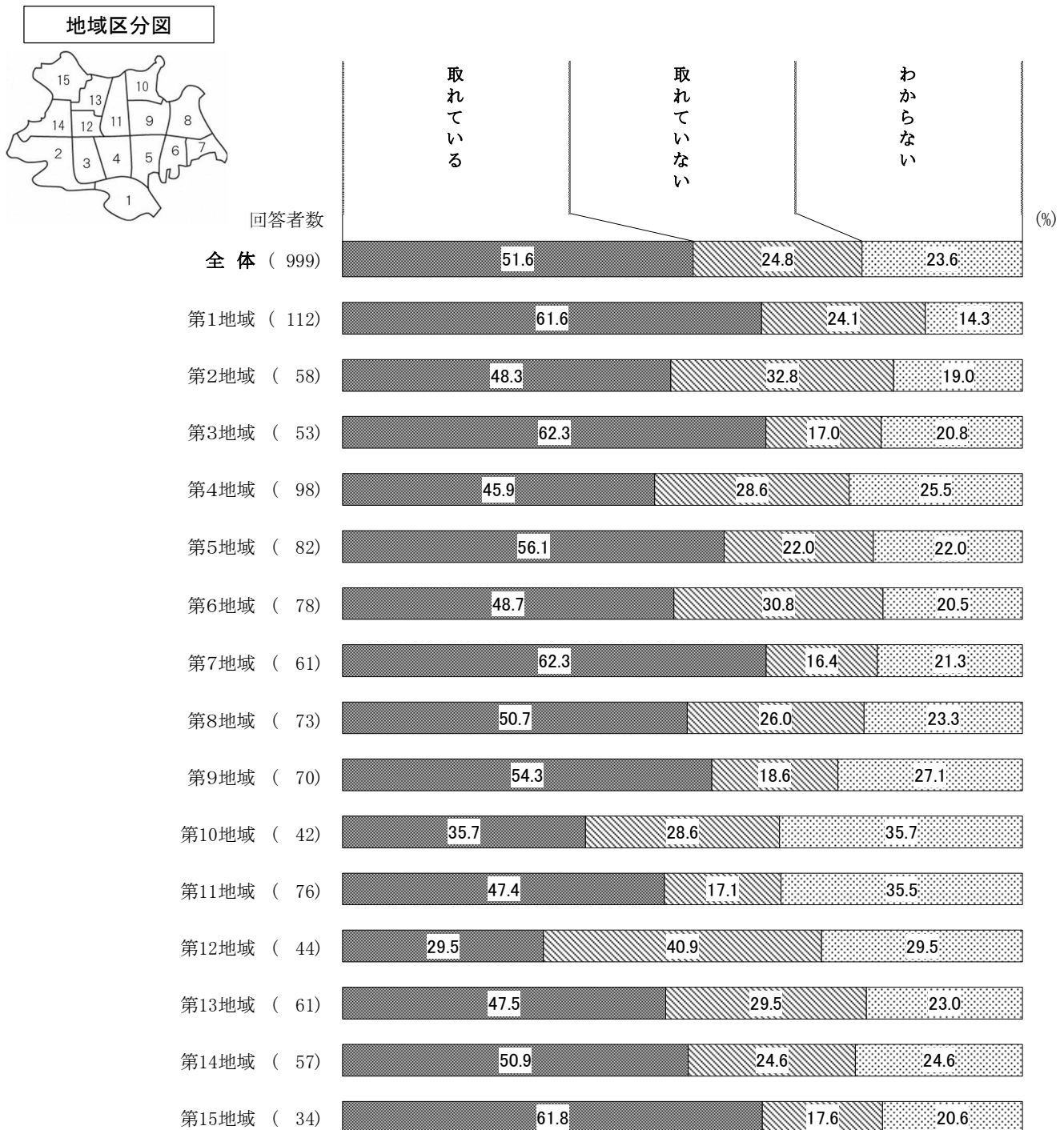


※「仕事をしていない」は、令和5年度調査からの新設項目。

イ クロス集計・地域別／就業者における仕事と仕事以外の生活の調和

地域別でみると、「取れている」は第3地域と第7地域が62.3%で最も高く、次いで、第15地域（61.8%）、第1地域（61.6%）が続いている。一方、「取れていない」は第12地域が40.9%で最も高く、次いで、第2地域（32.8%）、第6地域（30.8%）となっている。

図9－6－2 地域別／就業者における仕事と仕事以外の生活の調和
（※本図においては、就業者を母数として再計算している）

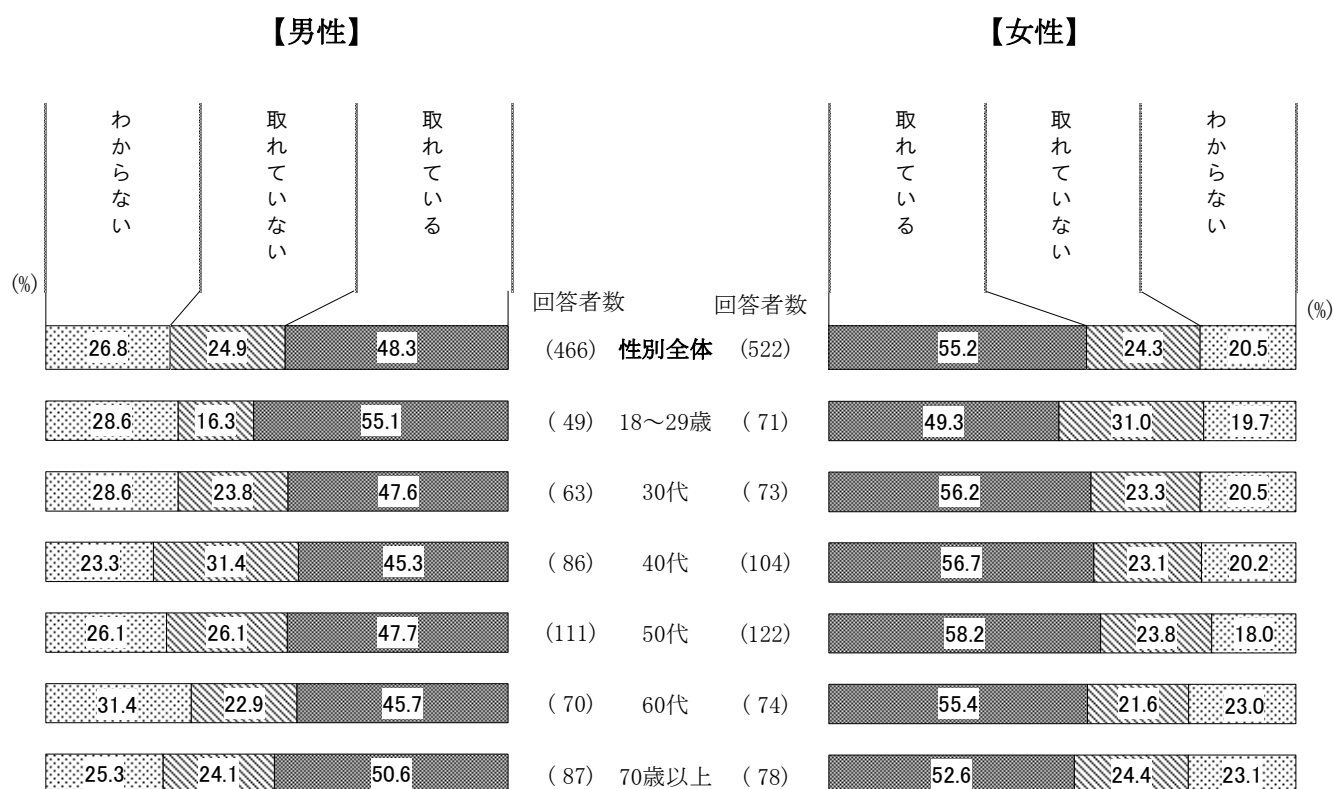


ウ クロス集計・性別、性・年代別／就業者における仕事と仕事以外の生活の調和

（ア）性別でみると、「取れている」は女性（55.2%）の方が男性（48.3%）より6.9ポイント高くなっている。一方、「取れていない」では性差が見られない。

（イ）性・年代別でみると、「取れている」は女性の30代以上の年齢層で5割以上となっており、男性では18～29歳と70歳以上で5割以上となっている。一方、「取れていない」は、男性の40代（31.4%）と女性の18～29歳（31.0%）で3割超と高くなっている。

図9-6-3 性別、性・年代別／就業者における仕事と仕事以外の生活の調和
（※本図においては、就業者を母数として再計算している）



（7）「成年後見制度」「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況

問39 あなたは、下記のア、イ、ウについて知っていますか（〇はそれぞれ1つつつ）。

■【知っている】は〈身体的暴力以外のDV〉が8割台半ば、〈LGBT〉が7割超、〈成年後見制度〉が6割台半ば

ア 単純集計・経年比較／「成年後見制度」「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況

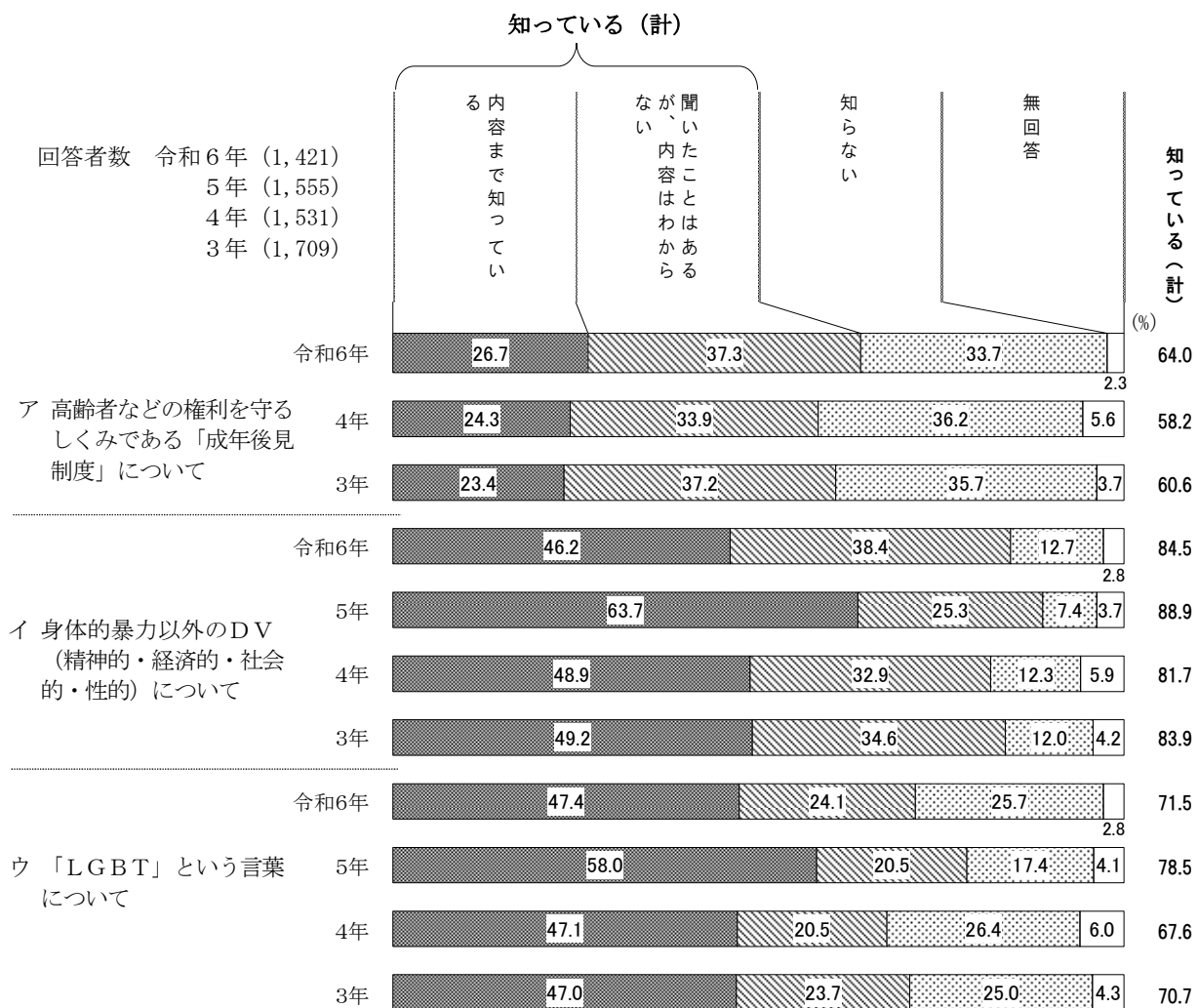
（ア）〈成年後見制度〉は、「内容まで知っている」が26.7%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」（37.3%）を合わせた【知っている】は64.0%となっている。

（イ）〈身体的暴力以外のDV〉は、「内容まで知っている」が46.2%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」（38.4%）を合わせた【知っている】は84.5%となっている。

（ウ）〈LGBT〉は、「内容まで知っている」が47.4%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」（24.1%）を合わせた【知っている】は71.5%となっている。

（エ）前回調査との比較では、「内容まで知っている」について、〈成年後見制度〉は微増したものの、〈身体的暴力以外のDV〉では17.5ポイント、〈LGBT〉では10.6ポイントの減少となっている。

図9-7-1 経年比較／「成年後見制度」「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況



※「成年後見制度」の設問は、令和3年度以降から聴取しているが、令和5年度では聴取していない

イ クロス集計・性別、性・年代別／成年後見制度について

(ア) 〈成年後見制度〉の認知状況を性別でみると、【知っている】は女性（67.2%）の方が男性（59.9%）より7.3ポイント高くなっている。

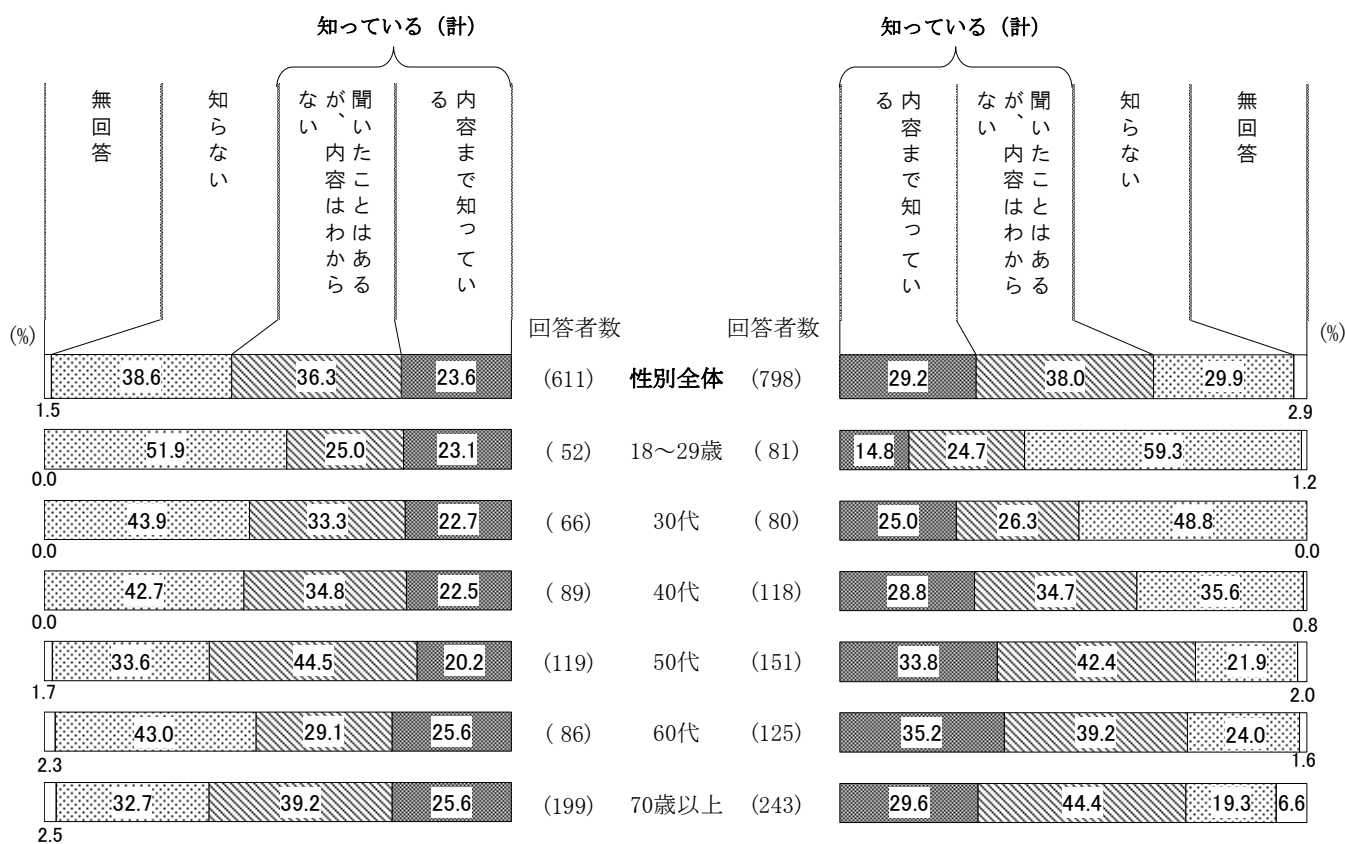
(イ) 性・年代別でみると、【知っている】は女性の50代で76.2%と最も高く、次いで、女性の60代、70歳以上が7割台半ばと続いている。一方、「知らない」は女性の18～29歳で59.3%と最も高く、男性の18～29歳（51.9%）も5割超で続いている。

図9-7-2-① 性別、性・年代別

／高齢者などの権利を守るしくみである「成年後見制度」について

【男性】

【女性】



ウ クロス集計・性別、性・年代別

／身体的暴力以外のDV（精神的・経済的・社会的・性的）について

（ア）〈身体的暴力以外のDV〉の認知状況を性別でみると、【知っている】は女性（86.2%）の方が男性（82.5%）より3.7ポイント高くなっている。

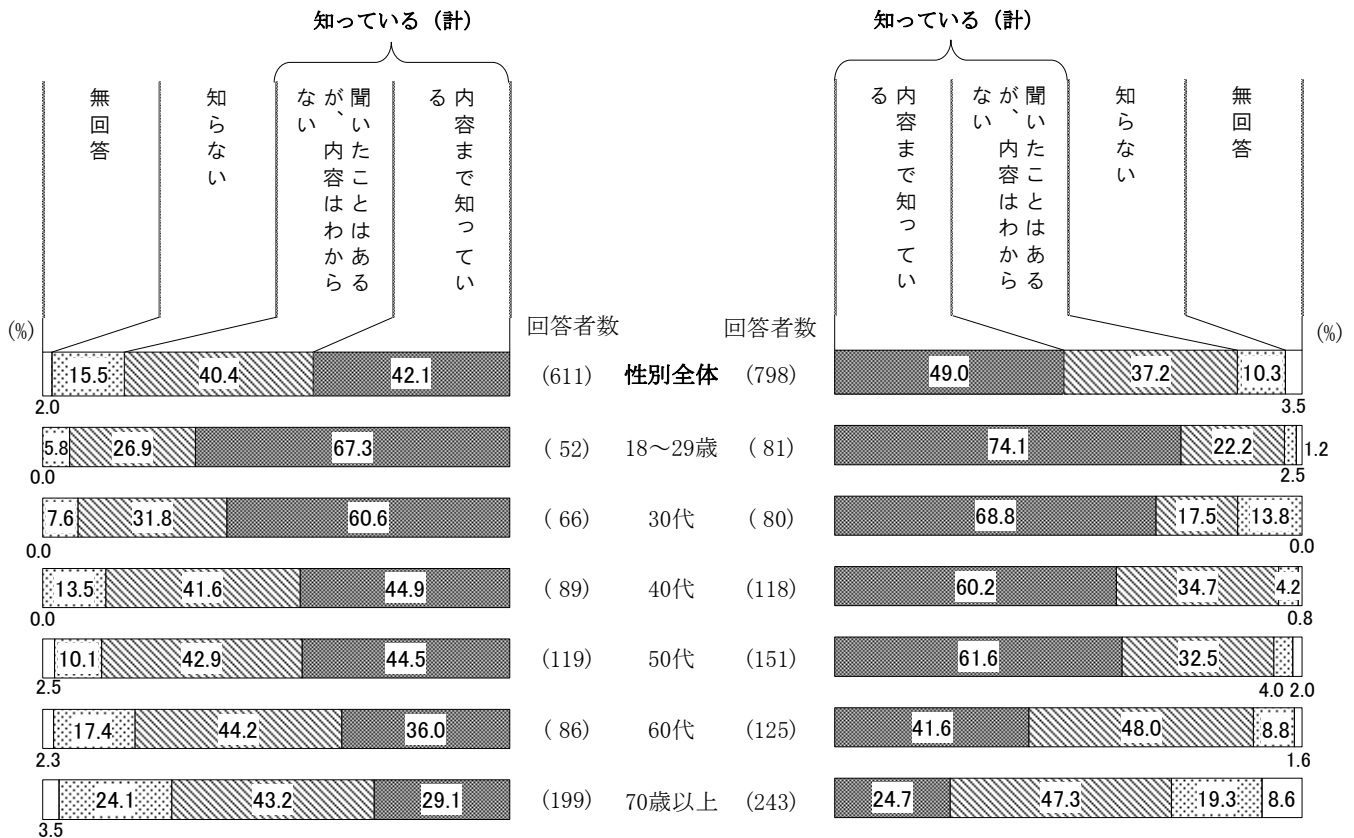
（イ）性・年代別でみると、【知っている】は女性の18～29歳で96.3%と最も高く、次いで、女性の40代、50代、男性の18～29歳、30代が9割台で続いている。一方、「知らない」は男性の70歳以上で24.1%と最も高く、次いで、女性の70歳以上（19.3%）、男性の60代（17.4%）が1割台後半で続いている。

図9-7-2-② 性別、性・年代別

／身体的暴力以外のDV（精神的・経済的・社会的・性的）について

【男性】

【女性】



エ クロス集計・性別、性・年代別／「LGBT」という言葉について

(ア) 〈LGBT〉の認知状況を性別でみると、特に大きな違いは見られない。

(イ) 性・年代別でみると、【知っている】は女性の18～29歳で93.8%と最も高く、次いで、男性の18～29歳（90.4%）となっており、男女とも18～29歳で9割台と高くなっている。一方、「知らない」は、は男性の70歳以上で48.2%と最も高く、次いで、女性の70歳以上（45.7%）となっており、男女とも70歳で4割台と高くなっている。

図9-7-2-③ 性別、性・年代別／「LGBT」という言葉について

